世帯配布

西福田の風 No.14

名古屋市立西福田小学校　令和７年２月２６日発行

学校教育に関するアンケート

１２月に実施した学校教育に関するアンケートへのご協力ありがとうございました。結果がまとまりましたのでご報告いたします。今回のアンケートは「４　よくあてはまる」「３　だいたいあてはまる」「２　あまりあてはまらない」「１　あてはまらない」「０　わからない」の５観点で評価していただきました。

保護者アンケートの結果から（アンケート提出数 69）

4「よくあてはまる」
3「だいたいあてはまる」
の合計割合

① 「おはよう」「ありがとう」等、あいさつすることができる。94.2%

今年度も保護者の皆様からは高い評価をいただきました。学校では、継続的にあいさつの指導に取り組んでおり、以前よりも、進んで元気なあいさつや会釈ができるようになったと感じています。「誰とでもあいさつができる」ということは、社会に出てからも、人と人とがつながるために大切な力です。今後も指導を継続し、学校内だけでなく、地域でお世話になっている方に会った時にも、自分から進んであいさつができるようにしていきたいと思います。

② 学校での学習内容を理解できている。81.2%

アンケート結果からは、昨年度より少し数値は下がりましたが、80%以上の家庭に肯定的な評価を受けております。また、同様のアンケートを教職員にも行ったところ、「学習を自分事として捉えられるような工夫は必要だ」「なぜ、その答えになるのかきちんと考えさせたい」「自分の授業をもっと工夫していく」等の記述がありました。子ども中心の学びを軸にして、主体的に子どもたちが学習に取り組めるように職員一同で、今後も様々な取り組みを続けていきたいと思います。

③ 運動会や作品展等の学校行事に前向きに取り組んでいる。98.6%

運動会では、開閉式の司会を児童会の子どもが中心となって行い運動会を自分たちで作っているという意識をもたせるきっかけを作りました。昨年度同様に、保護者の皆様からは高い評価をいただきました。運動会や作品展では、子どもたちの頑張る姿や成果を見ていただくことができました。運動会の典礼では、児童会の役員が司会となって進めました。また、作品展では、「自分らしく思いのままに」をテーマにして行うとともに、作品作りの途中ではお互いにアドバイスをしたり、完成した作品のよさを子どもたち同士で伝え合ったりすることで、子どもたちがより自分らしさを発揮しながら、一生懸命取り組む姿を見ていただきました。

④ 「自分のよいところ」を自分で言うことができる。84.1%

昨年度の結果が肯定的な回答が71．7%であったのに対して、今年度は、84．1%と、大幅に上昇しています。昨年度より、学校努力点として、低学年では「自分の好きなものを見つける」、中学年では「自分の持ち味を発揮して、役割を自覚する」、高学年では「自らの夢や希望をふくらませる」を目標に、授業等で自分を見つめる活動を行ってきました。担任の先生は、授業や行事等で、自分のよさを発見したり、お互いに伝え合ったりする活動を積み重ねてきました。また、担任の先生だけでなく、全ての職員で子どもたちを見守ったり、縦割り活動やペア学年での活動を通して、異学年の子たちと交流をする中で、その子のよいところに気付かせるきっかけを作ることができました。教職員アンケートの記述にも「キャリア教育を通して、今後の自分のやりたいことや、そのために必要なことを学べる機会を増やしたい」とあります。来年度も行事や授業等で、自分を見つめ振り返る活動を取り入れたり、よいところを見つけて子どもに伝え合ったりする活動を増やしていきます。

⑤ 縦割り班で、他学年の子と関わることを楽しむことができている 92.8%

昨年度から縦割り班を復活させました。1～6年生全員で集まりゲームを行う仲良し集会や、戸田川緑地へ遠足に行き、ゲームにチャレンジする全校オリエンテーリングを行いました。今年度は、オリエンテーリングのゲームの内容を代表委員会が自分たちで考えたり伝えたりすることで、子どもたちが主体となって企画しました。また、これまで教員が企画して児童会が運営をしていたやきいも集会を、今年度は子どもが企画・運営する行事として行いました。各委員会ごとにそれぞれの役割を分担し、企画・運営を各委員会に任せることで、より多くの児童の手によって行事を作る感覚を味わわせるきっかけを作っていくことができました。保護者の方からは「縦のつながりに苦手意識があるようだが、学校生活ではこういった縦・横・ななめの関わりをしていくことは大事だと思うので、継続してほしい」ともありました。今後も縦割り活動については、「西福田の宝」として続けていきたいです。

⑥ 学校が「キャリア教育」に力を入れることで、「なりたい自分になる」というイメージを高めることができている。68.1%

昨年度は、質問項目が「学校がキャリア教育に力を入れていることを知っている」という質問で、肯定的な回答が60%であり、周知されていない部分が多いのが現状でした。今年度は、努力点だよりの発行を定期的に行うだけでなく、中日新聞社とも協力して「つくる仕事体験（4～6年で実施）」を取材してもらうなど、キャリア教育の取り組みを発信していきました。

今年度は、周知されているかどうかに限定するのではなく、「なりたい自分になる」というイメージを高められるかどうかの質問項目を追加変更しました。単純に昨年度と数値で比較することはできませんが、質問項目の難易度が上がっているにも関わらず、70%近くの肯定的な回答を得られました。しかし、まだまだ十分とはいえず、教職員アンケートからも「折りに触れてキャリア教育には取り組んでいるが、まだ十分に高まっていないように感じます」という記述も見られました。来年度はキャリア教育の3年目ということもあり、今後も学校の取り組みを発信していくことにくわえて「なりたい自分になる」というイメージを高められるように、本物のヒト・モノ・コトと出あう機会を作ったり、自分らしさを見つめ直す教育活動を継続したりします。

学校評議員会でも、「キャリア教育をすることで先生たちも『なりたい自分になる』という目標に対して子どもに伴走していくという意識も高まっている。」というご意見もいただいております。

⑦ 学校に楽しんで通うことができている。95.7%

子どもが「学校が楽しい」という気持ちをもつことを大切にしたいと考え、この質問項目を今年度から追加しました。肯定的な回答が95%であり高い評価をいただいていますが、現在の評価に満足するのではなく、すべての児童が「学校が楽しい」と言ってもらえるように、100%を目指して保護者の皆様との連携を大切にしながら、学校教育活動を進めていくことができるよう、努めていきたいと思います。

児童アンケート（12月実施）の結果から（アンケート提出数 111）

4「よくあてはまる」
3「まあまああてはまる」
の合計割合

① 「おはよう」「ありがとう」等、あいさつすることができる。96.4%

② 学校の勉強が分かる。91.0%

③ 運動会や作品展などの学校行事に一生懸命取り組んでいる。99.1%

⑤ 遠足ややきいも集会で、たてわり班で、ほかの学年の子と一緒に過ごす時間を楽しんでいる。98.2%

⑥ 「チャイムを守る」「ろうかを走らない」「友達にいやなことをしない」などを守ることができている。98.2%

⑦ チーム・ティーチング（2人以上の先生で行う授業）のとき、勉強が分かりやすい。99.1%

これらの項目から、学校生活におおむね満足できていることが分かります。

あいさつやルールを守ることについては、教職員が日頃の学級経営などで多くの声かけをしたり、気付かせたりしていることが、子どもたちの意識の向上につながったと考えられます。今後は学校生活ルールのあり方も見直していきながら、落ちついた学校生活を送ることができるように粘り強く声かけをしていきます。

また授業においても、チーム・ティーチングを活用しながら、分かりやすい授業、子どもが楽しいと思える授業、成長できたと思えるような授業を目指していきます。

学校評議員会からのご意見でも、「大学入試では、思考力や応用力が必要になっている。学力の定着に向けた取り組みが大切である」「できていないところをどうやってフォローをしていくのかが大切である」「行事などの運営を子どもが行い、子ども主体としていくことはよいことである」というご意見をいただきました。

④ 「自分のよいところ」を言うことができる。80.2%

昨年度は67．7%であったので、自分のよいところを見つけることができた児童が増えてきています。

学校評議員会からのご意見でも、「自信をもたせることは難しいことかもしれないけれど、発言できる環境を作ってほしい。」というご意見をいただいております。

次年度以降も継続的な努力をして、全ての児童が成果を実感できるように指導を続けていきたいと思います。

アンケートの実施にご協力いただき、ありがとうございました。
いただいたご意見をもとに、よりよい学校教育を作っていこうと思います。